

株主通信 (第86期 第1四半期)

2020年4月1日～2020年6月30日

Passion for the Next Innovation

～次なる革新への熱い思い～



株式会社 電業社機械製作所

証券コード 6365

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。
また、「令和2年7月豪雨」により、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。ここに、第86期 第1四半期の株主通信をお届けいたします。
2020年度は、3年計画として新たに策定した「中期経営計画2022 D-Active」のスタートの年となります。「Passion for the Next Innovation ～次なる革新への熱い思い～」のスローガンのもと、電業社ブランドの浸透を図り、熱い思いで自らが牽引者となって、選ばれる企業へ変身してまいります。
新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、先行き不透明な状況が続いていますが、働き方の新しいスタイルを推進しながら、中期経営計画に掲げる基本戦略に取り組んでまいります。
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年9月

代表取締役社長

村林秀晃



事業の概況

■経営環境

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、各国においてロックダウン（都市封鎖）等の対応策が講じられ、経済活動が大きく停滞・混乱したことから、景気は急速に悪化しました。わが国経済においても、緊急事態宣言の発令を受け、個人消費が大きく落ち込み、企業収益や雇用情勢も悪化したことから、極めて厳しい状況となりました。緊急事態宣言の解除後は、徐々に経済活動が再開されているものの、収束時期の見通しが立たず、予断を許さない状況が続いています。

■経営成績

当第1四半期連結累計期間における受注額は、大型案件を受注した海外部門が好調であったことなどから、前年同期に対し145.0%の65億25百万円となりました。売上高については、官需部門の売上案件が前年同期に比べて増加したことから、前年同期に対し127.5%の29億38百万円となりました。利益については、前年同期に比べて売上高が増加したことなどから、営業損失1億52百万円（前年同期営業損失3億円）、経常損失87百万円（前年同期経常損失2億31百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失72百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失1億64百万円）となり、各損失が減少しました。

なお、当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節の変動があります。

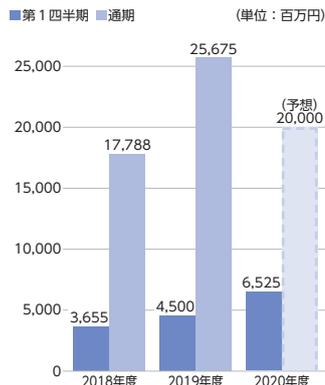
■通期の見通し

新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行の影響により、今後の世界経済は低迷が避けられない見通しであり、感染症の収束状況によっては下振れするリスクもあります。

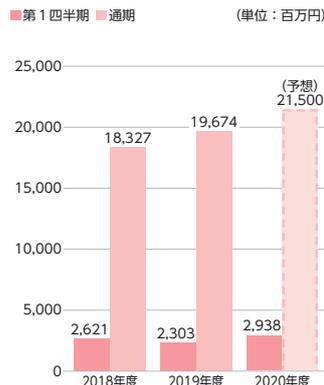
2021年3月期の当社の連結業績予想につきましては、2020年6月17日に公表いたしました業績予想から変更はありませんが、実際の業績は今後の様々な要因によっては、大きく異なる可能性があります。

連結財務ハイライト

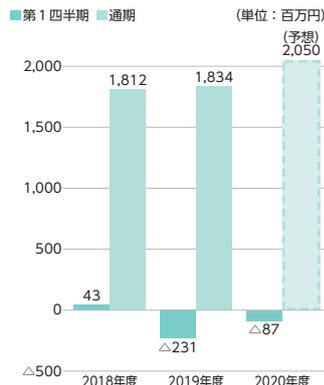
● 受注高



● 売上高



● 経常利益



● 親会社株主に帰属する当期純利益

